

# 分野別推進戦略について

## 1. 趣旨

第3期科学技術基本計画の下、「明日への投資」である政府研究開発投資の効果を最大限に発揮するためには、基礎研究の着実な推進とともに、政策課題対応型研究開発の戦略的重点化が必要。

重点推進4分野（ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料）及び推進4分野（エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア）の各8分野において、今後の投資の選択と集中及び成果実現に向けた推進方策を総合科学技術会議がとりまとめた。

## 2. 概要

### (1) 重要な研究開発課題（273課題）

今後5年間に政府が取り組むべき重要な課題を、将来波及予測、国際競争、政策目標への貢献、官民の役割分担など総合的な視点から抽出。各課題毎に研究開発目標及び成果目標を政府の責任部署とともに明記。

### (2) 戦略重点科学技術（62科学技術）

- 前記重要課題の中から、急速に高まる社会・国民のニーズに迅速に対応すべきもの、国際競争を勝ち抜くために不可欠なもの、国主導で取り組む大規模プロジェクト（国家基幹技術）で今後5年間集中投資すべき科学技術を選定。

(具体例)

- ライフサイエンス分野：研究成果を創薬や新規医療技術に実用化する橋渡し研究など
- 情報通信分野：IT産業の国際的な競争優位を勝ち取る科学技術など
- 環境分野：我が国が環境分野において国際リーダーシップをとるための科学技術など
- ナノテクノロジー・材料分野：ナノ領域での飛躍的な進歩や革新的材料で限界を突破し、社会・産業の要請に応える研究など
- エネルギー分野：運輸部門の石油依存を脱却する科学技術など
- ものづくり技術分野：日本独自のものづくりの強みをさらに強化する技術など
- 社会基盤分野：減災を重視し被害を大幅に減らす技術など
- フロンティア分野：信頼性の高い宇宙輸送システムなど

- 選定された戦略重点科学技術は、重点推進4分野においては約20%、推進4分野では約13%となった。

(注)戦略重点科学技術のうち、大規模プロジェクトで集中投資が必要な「国家基幹技術」には、次世代スーパーコンピュータ、宇宙輸送システム、海洋地球観測探査システム、高速増殖炉サイクル技術、X線自由電子レーザーが該当。

### (3) 研究開発の推進方策

各分野において研究開発及び成果の社会還元を円滑に進めるための方策、例えばライフサイエンス分野では治験を含む臨床研究の体制整備、情報通信分野では次代を担う先導的IT人材の育成を推進すること等を明記。

### (4) 留意点

戦略重点科学技術は特に集中的に予算を伸ばすべきものとして選定するものであり、それ以外の科学技術予算についても、精査して資源配分を行う対象であることに変わらない。総合科学技術会議は予算の優先順位付け等において適切に判断していく。また、この分野別推進戦略の運用に当たっては、科学技術の発展など将来の情勢の変化にも柔軟に対応する。